

上下水道



水の水質保全と安定供給

上水道

大正13年に八景水谷水源地、立田山を配水池として通水を開始して以来、今日まで清浄な水の安定供給に努めています。

水道水源の全てを地下水だけで賄い、55万人に給水している都市は、他に類をみません。

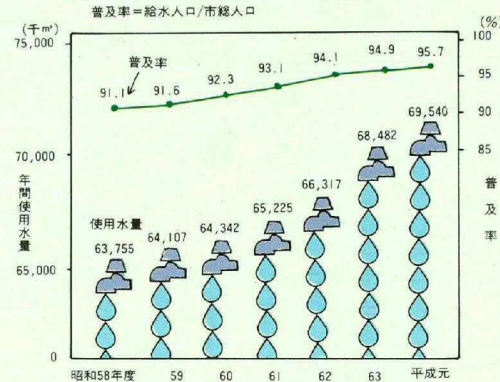
市街化の進展に伴う人口の増加、生活様式の変化により増大する水の需要に対応し、安定した給水を図るには常に事業の先行的投資を行わなければなりません。

これまでに4次にわたる拡張事業を推進してきましたが、今後は合併に伴う新

たな拡張計画の策定を早急に行う必要があります。

また、貴重な水の有効利用や節水対策を図るため、上水道と地下水を中心に、私達の暮らしに欠かすことのできない水について理解と関心を持ってもらい、子供達の学習の場、水に親しむ憩いの場として利用してもらうため、上水道発祥の地である八景水谷公園に「熊本市水の科学館」をオープンしました。多くの方々の利用を期待しています。

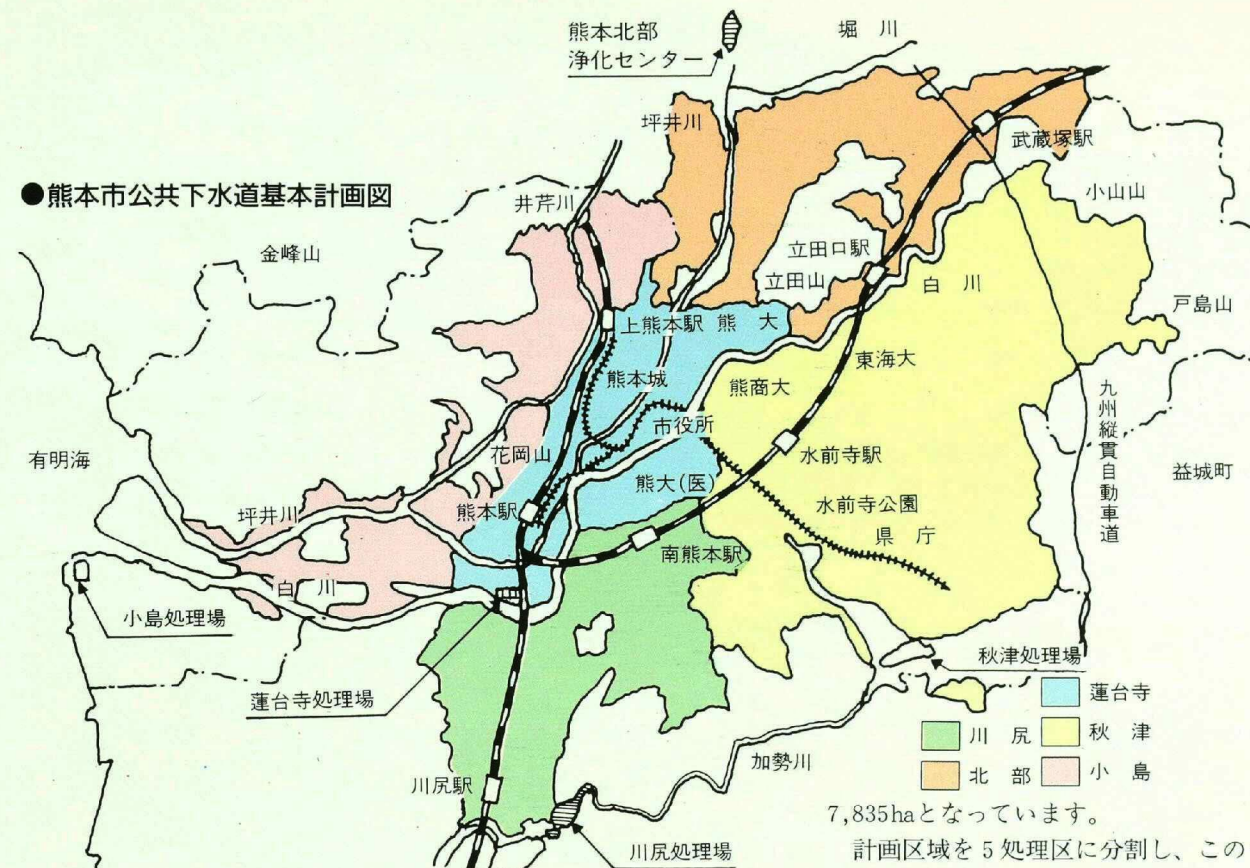
●使用水量と普及率の推移



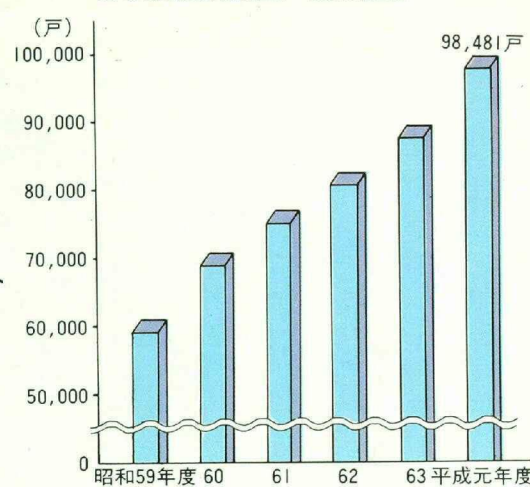
水の科学館



●熊本市公共下水道基本計画図



●水洗便所設置戸数の推移



(全国平均42%)となっており、市では下水道の今世紀中の完成をめざし事業の促進を図っています。

また、下水処理水は貴重な水資源であり、有効に利用するため、蓮台寺処理場では、昭和60年から稲作のかんがい用水として近隣の水田225ha(対象農家戸数529戸)に供給しており、川尻処理場でも場内の水洗便所、泉水に下水処理水を使用しています。今後、普及率の向上とともに処理水はさらに増大するものと予想されており、その再利用について積極的に取り組むことにしています。

下水道は、快適で健康な市民生活と公共用水域の水質保全を目的とした都市の基幹施設です。

昭和23年に中心市街地を着手して以来、逐次区域を拡大し、現在、10,080haの区域に基本計画を策定、事業認可区域は



川尻下水処理場・汚泥焼却施設

都市計画

C

都市機能の活性化

西部第一土地区画整理事業市街化予想図

都市計画

都市計画は、農林漁業との健全な調和を図りながら、健康で文化的な都市生活を確保するため、適正な制限のもとに土地の合理的利用を図るという基本理念があります。これに基づき、本市域（総面積171.73km²）は、市街化区域（91.81km²）と市街化調整区域（79.92km²）に区分され、熊本都市計画区域（424.79km²）1市9町の核となっています。市域では、市街化が進む周辺部の無計画な開発の規制を、中央部では再開発の促進と都市景観に配慮しながら、開発条件の整備に努力しています。また、都

市の面的開発整備としては、南部第一土地区画整理事業等の区画整理事業や開発許可制度による計画的な整備を図っています。平成元年度末現在の都市計画施設の計画が決定されているものは、道路48路線、公園179カ所、緑地11カ所、墓園3カ所、流通業務団地1カ所、自動車ターミナル2カ所、駐車場1カ所、駅前広場4カ所、下水道終末処理場4カ所、汚物処理場1カ所、ごみ焼却場2カ所、火葬場1カ所であり、順次整備が進められています。なお、市街化調整区域については、市街化を抑制し、自然環境の保護と活用を図り、優良農用地の保全と農業基盤の整備に努めています。

区画整理

土地区画整理事業は、計画的で秩序ある街づくりを進めるために、道路、公園、水路などの公共施設を整備し、宅地の利用増進を図ることを目的としています。本市では、戦災で焦土と化した市中心

部の復興土地区画整理事業をはじめ、東部第一土地区画整理事業など、既に30地区約1,310haが完了しています。

現在、南部第一土地区画整理事業外6地区約142haで事業が行われていますが、中でも南部第一土地区画整理事業は、都市計画道路3路線の整備をはじめ小、中学校、ショッピングセンター、公園などとともに「緑と安らぎと潤いのある街づくり」が進められています。

また、西南部地域の計画的な開発の拠点づくりをめざして、島町周辺の西部第一土地区画整理事業を計画しており、平成3年度事業認可の予定です。

今後も、区画整理事業のPR、啓発を積極的に行い、住民参加のもと、魅力ある街づくりの推進を図っていく方針です。

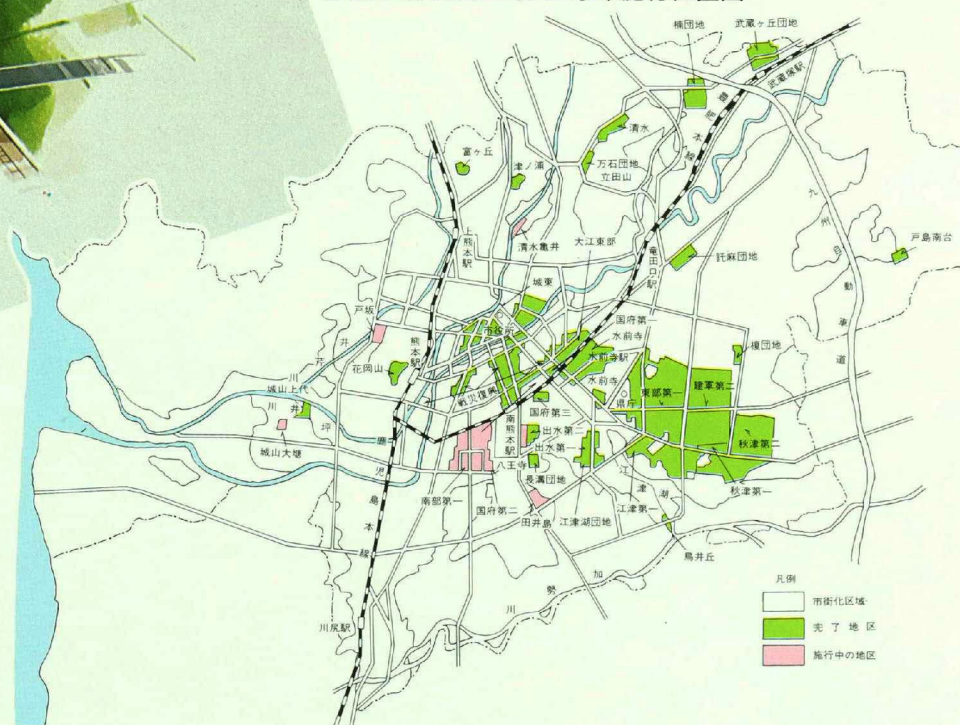
都市の整備

多様化・高度化する社会情勢の変化に伴い、本市においても生活環境の向上、安全で快適な都市空間の創造等を目的とした拠点整備や都市機能の更新を図るため、各種の施策を促進しています。昭和63年度に全市的視野に立った都市整備の必要地区の検討をおこないました。現在、これらに基づいて都市整備の観点から市民意識調査等を実施して市民合意の街づくりや都市整備に関する調査や検討を推進しています。

一方、熊本駅周辺については「熊本駅北地区第一種市街地再開発事業」を着工したことにより、駅周辺の活性化推進に対する大きな効果が期待されています。更に、「熊本駅周辺地域整備構想」を基盤にした都市機能の整備や集積を図ることにより副都心としての整備更新が待たれるところです。

このように、今後は豊かで潤いのある都市空間を創造するため、市街地において拠点の整備あるいは新拠点の創出を目指し、各種の調査や広報活動を展開し住民参加型の新しい街づくりを推進することとしています。

●熊本市土地区画整理事業施行位置図



道

路



Homon City 246

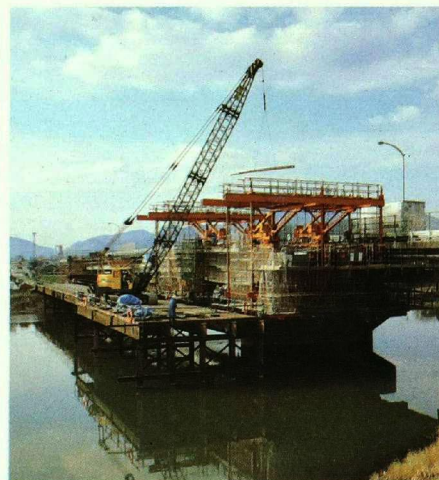
日常生活と経済活動及び
地域社会の形成と円滑化

道路は私たちの日常生活や経済活動に欠かすことのできない最も重要な社会資本であり、活力と潤いのある地域社会の形成や、安全で快適な生活環境を創出するためにも重要な役割を担っています。

近年、生活の質的な向上と共に、身近な生活の場としての街づくり、明るい街づくりが提唱されており、都市の道路環境は、安全で便利であることはもちろん、美しく、快適であることが強く求められています。

このようなことから市では、経済力に見合った豊かさを実感できる社会的要求に対応するための重点施策として、地域

の歴史と文化を取り入れた環境整備、また、交通渋滞対策事業として、幹線道路の整備、更には生活様式の変化による夜間の交通の安全を確保するための道路照明強化の景観照明事業などを積極的に推進しています。又、道路は市民みんなが使用するものであり、無秩序に置かれた自転車、バイク、広告看板などは歩行者の障害となり、街の美観を損うばかりでなく、災害時における防災活動に支障をきたすことになります。常にみんなが安全に利用できるような道路を、一人ひとりがつくりあげることが必要です。



蓮台寺橋掛替工事



水前寺公園参道



長堀通り

市電・市バス



Homon City 246

市民の暮らしの
拠点を結ぶ移動空間

市営交通は、電車が正13年8月、路線バスは昭和2年11月の創業で、現在の車両数は電車41両、バス190両で一日平均8万人近くの乗客を運び、市営交通機関としての重要な役割を果たしています。

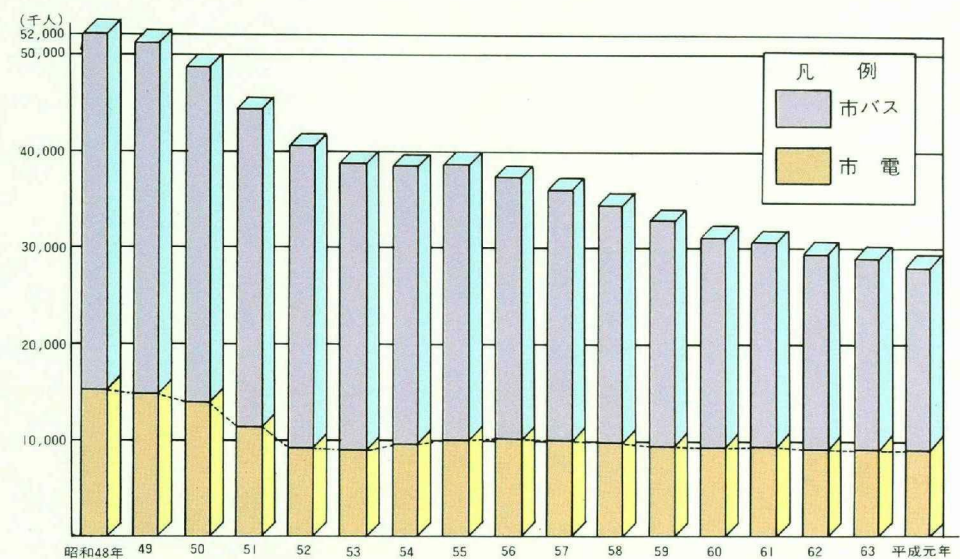
しかし、近年の道路交通の混雑と、自家用車・二輪車など交通手段の多様化に伴い、利用客は年々減少傾向にあります。

このような状況に対応して、軌道敷内への他車乗入禁止、新型電車の導入、都市景観にマッチした電停の整備、新都市型バスの導入、停留所上屋やソーラー式バス停標識の設置等一連のサービス改善を図り、利用客回復への努力を続けています。

●市電・市バス輸送人員の推移

(単位：千人)

	昭和48年	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成1年
市電	15,204	14,789	13,886	11,317	9,219	8,969	9,580	9,981	10,069	9,925	9,754	9,370	9,167	9,243	9,060	8,985	8,809
市バス	36,896	36,358	34,720	32,970	31,194	29,619	28,729	28,516	27,125	26,001	24,624	23,287	21,817	21,241	20,338	19,930	19,178
計	52,100	51,147	48,606	44,287	40,413	38,588	38,309	38,497	37,194	35,926	34,378	32,657	30,984	30,484	29,398	28,915	27,987



熊本の表玄関にふさわしいおしゃれな熊本駅前電停

基幹交通



陸へ海へ、空へ21世紀へ向けて
交通ネットワーク

熊本空港

昭和46年4月、高遊原台地に開港した熊本空港は、昭和55年に滑走路が3kmに延長されたほか、昭和58年国際線ターミナルビルのオープン、63年には新貨物ビルが完成するなど、大型化、国際化が進むフライト事情に十分対応できる施設・機能の整備拡充が行われています。

現在、国内線では、全日本空輸が東京、大阪、名古屋、沖縄に1日10便、日本エアシステムが、平成元年に1便増便され、東京に1日3便往復運航しています。また、国際化の進展するなか、昭和54年日本航空が週1便ソウルへの運航、昭和62年香港ドラゴンエアが週2回定期チャーター便を運航しているほか、韓国、中国、東南アジア、ハワイ、豪州方面へのチャーター便も増えています。

このように空港施設の充実、航空路線の拡充にともない、開港当時48万人にすぎなかった乗降客は平成元年には約194万人に、貨物は1,900tから16,132tに達しており、熊本の空の玄関として、熊本空港の果たす役割はこれまで以上に重要なものになると予想されています。

鉄道網

九州を縦断する鹿児島本線と、横断する豊肥本線は本市で交わり、九州の大動脈として流通、観光、情報伝達など広い分野にわたって重要な役割を果たしています。

市域内には、両線が結節する熊本駅のほか鹿児島本線に熊本工大前駅、上熊本駅、川尻駅の3駅、豊肥本線に南熊本駅、新水前寺駅、水前寺駅、東海学園前駅、竜田口駅、武蔵塚駅の6駅があり、全駅で年間1千万人以上の乗降客が利用しています。

一方、九州新幹線鉄道(博多～鹿児島、計画延長249km)は、都市間交通の利便性の飛躍的向上と地域発展に大きく寄与することから、その早期着工が望まれています。

九州縦貫自動車道

本州と連結する九州縦貫自動車道は、北九州～鹿児島、宮崎を結ぶ計画延長432kmの高速自動車道であり、現在北九州～人吉、えびの～鹿児島、えびの～宮崎間の約409km、総延長の約95%が開通しています。

昭和61年には熊本～植木間の1日平均交通量が2万台を越え、また、都市間高速バス輸送の拡充がすすむなど、九州の動脈路線として利用は年々増加しています。

しかしながら、人吉～えびの間はいまだ開通しておらず、九州の中央に位置する本市の拠点性の一層の向上を図るためにも、全線の早期開通が待たれるところです。

熊本港

昭和49年4月重要港湾に指定された熊本港は、物資流通の拠点として、熊本都市圏に低コスト大量輸送の門戸を開き、海外の窓口として、貿易の振興に寄与するとともに、企業立地や道路網の整備を通して、本市西部はもとより都市圏経済の発展に貢献する基幹流通施設として期



九州縦貫自動車道熊本I・C

待されています。

昭和63年3月には、熊本大橋(872m)と物揚げ場が完成し、現在、1千トン級のフェリーが就航できる岸壁及び港湾関連の造成等が行われています。

平成9年度には、全面開港が見込まれ、1万5千トン級の船舶も就航できることになります。

また、港湾埋立地内には、流通加工型工業の立地や、マリナ、人口海浜などの施設が併設され、海洋性レクリエーション基地がえられる予定です。



熊本港



新装なった熊本駅



熊本空港

